

場所 秋田県秋田市

面積 0.0256ha

活動目的 商業施設内にビオトープを整備し、生物や水環境のモニタリングを継続的に実施し、在来生物の成長や増加に必要な水環境と飛来動物の調査結果から、自然生態系の保全や循環及び地域での生物多様性の重要性の周知活動に貢献する。



サイト概要 商業施設フレスポ御所野の既設の広場を「八郎潟」に模したビオトープとして再整備しました。秋田県内にある八郎潟の約1/1800のサイズで整備し、生態系の保全や循環および地域での生物多様性の重要性の周知活動に貢献することを目的としています。

絶滅危惧種のキタノメダカを主とした八郎潟と雄物川流域（設置場所）の共通の在来種であり、干拓後も八郎湖で生存している魚類を飼育し、ヨシ・ヒメガマなどの水草を植え、八郎潟の環境に近付けています。計画から完成まで自治体、教育機関、NPO法人等地域とのつながりの構築を行いました。

**土地利用の
変遷**

御所野ニュータウンの中心部にある商業施設「フレスポ御所野」は、都市再生機構が所有する宅地開発予定地でしたが、2005年に都市再生機構が土地の競争入札を実施し、当社が落札し、2006年12月9日、「フレスポ御所野」がグランドオープンしました。

**サイト周辺の
環境**

小学校や保育園が近隣にあり、環境教育に活用しやすく、また、大きな公園や商業施設もあり、多数の人が目にしやすい場所です。
サイトの敷地にある商業施設「フレスポ御所野」も当社の所有地であり、運営も行っています。

**アピール
ポイント**

キタノメダカを主とした八郎潟周辺と雄物川流域（設置場所）の共通の在来種であり、干拓後も八郎湖で生存している魚類を飼育し、ヨシ・ヒメガマなどの水草を植え、八郎潟の環境に近付けています。近隣小学校からビオトープのネーミングを募集し、「ハチロウトープ」に決定しました。今後も近隣の教育機関にビオトープを活用いただけるように提案を継続しています。現在は「ヤリタナゴの生息」に向け専門家と相談し、繁殖させ、将来的に八郎湖へ還元することを目指しています。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

1957年に開始された干拓事業以前の八郎潟の再生をイメージして、キタノメダカ等の生物のほかに、周囲にはヤマザクラやヤマモミジ等の植物を季節ごとに楽しむことができます。ネーミングは隣接する小学校から募集し、「ハチロウトープ」に決定しました。今後は現在取り組んでいるヤリタナゴの繁殖を含む八郎湖周辺の生きものを育て、情報発信を行い、環境学習の場としても活用します。

【主な植生】

ヤブツバキ、ヤマブキ、ツツジ、マユミ、ハギ、ヤマザクラ、コブシ、ヤマモミジ等をビオトープエリアに植栽

【確認された主な動植物など】

八郎湖水域と雄物川水域にすむ生き物

- (貝類) イシガイ (学名: *Unio douglasiae*)
- (魚類) ヤリタナゴ (学名: *Tanakia lanceolata*)
- キタノメダカ (学名: *Oryzias sakaizumii*)
- ドジョウ (学名: *Misgurnus anguillicaudatus*)
- (甲殻類) スジエビ (学名: *Palaemon paucidens*)
- (植物) ヤブツバキ (学名: *Camellia japonica*)
- ヤマブキ (学名: *Kerria japonica*)
- ヤマツツジ (学名: *Rhododendron kaempferi*)
- マユミ (学名: *Euonymus sieboldianus* Blume var. *sieboldianus*)
- ハギ (学名: *Lespedez*)
- ヤマザクラ (学名: *Cerasus jamasakura*)
- コブシ (学名: *Magnolia kobus*)
- ヤマモミジ (学名: *Acer amoenum* var. *matsumurae*)



写真の説明：繁殖確認されたキタノメダカの幼魚



写真の説明：ヤマブキ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【活動計画の内容】 商業施設内にビオトープを整備し、生物や水環境のモニタリングを継続的に実施し、在来生物の成長や増加に必要な水環境と飛来動物の調査結果から、自然生態系の保全や循環及び地域での生物多様性の重要性の周知活動に貢献する。 近隣教育機関を対象とした定期的なイベントを開催することにより、生物多様性の重要性の周知活動を行う。</p> <p>【主な活動内容】</p> <p>①申請者による活動</p> <p>a. 日常的なビオトープの水位確認。蒸発し水位が下がっている場合、貯水した雨水やカルキ抜きした水道水を適宜追加。 * 水位点検については水位が低下しないよう目盛を設け、水位観測します。</p> <p>b. 設置した人工池、敷地へ初期投入した生物・植物の成長管理</p> <p>c. 飛来生物が巣箱に住み着くかの観察</p> <p>d. 定期的なイベントおよび学習会の実施</p> <p>c. 新しく増えた生物・植物の有無・生物が増える、増やせる環境の調査</p> <p>②専門家のアドバイスのもと行う活動</p> <p>a. 1回/年の「びんどう」による採取と観察を行い、採取した生き物はサイトの基礎情報に記載した専門家と相談し、次年度への改善につなげる。</p> <p>b. 水の状態（水の表面や色）や汚染状況（アオミドロ等）、外来種の点検・駆除方法については専門家のアドバイスのもと地元維持管理業者にて実施。</p>	<p>【モニタリング対象】 甲殻類、魚類、植物を対象とする。</p> <p>【モニタリング場所】 ビオトープ（申請サイト）</p> <p>【モニタリング手法】 直接観察 ビンドウによる仕掛け</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に年に1度の頻度で実施。 ・モニタリング実施年の7月～9月に実施。 <p>【モニタリング実施体制】 専門家に依頼して実施</p>